

第2回役員選考のための選挙結果

第2回役員選考のための選挙の開票を3月8日 全国協議会事務局にて行いましたので、その結果を下記の通り報告します。

2003年3月10日
選挙管理委員長 梅田正造

1. 公募理事 投票結果

名前	得票数	結果
三田村真	39	当選
木村 紀	38	当選
菅 早苗	38	当選
池田直樹	36	当選
西澤洋子	35	当選
二見茂男	33	当選
中谷康一	33	当選
猶 克実	29	当選
金剛 毅	23	次点

※なお、立候補者のなかった役員については、役員選考規程第13条に基づき、役員選考委員会により、役員有資格者が選出されます。

2002年3月25日

厚生労働大臣
坂口 力 様

特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
会長 海部幸世

同種末梢血幹細胞移植に関する要望書

貴職におかれましては益々御清栄のこととお慶び申し上げますと共に、日頃からの厚生行政への御尽力に深く感謝致します。
さて週日報道発表された、血縁者間末梢血幹細胞移植施行後に提供者側に発生したとされる長期有害事象に骨髄バンク関係者として深く憂慮しております。
つきましては、下記事項について要望させていただきますので、十分な配慮方を宜しくお願い申し上げます。

記

1. 今回の有害事象と同種末梢血幹細胞移植との因果関係、特に薬剤(G-CSF)投与との関係について、早急に究明して頂くと共に、その情報を公開して頂くこと。
2. 現在、日本造血細胞移植学会主導で制定されている、同種末梢血幹細胞移植ドナーに関するガイドラインを見直すことと、その遵守指導の徹底を図り、血縁者間ドナーの安全性確保に十分配慮頂くこと。
3. 同種末梢血幹細胞移植の非血縁者間への導入拡大については、厚生科学審議会での方針等も考察されるかと存じますが、血縁者間での長期ドナーフォローアップ事業、海外骨髄バンク等での十分な実績の蓄積、安全性が確認されるまでは実施しないこと。

以上

全国協議会が二つの要望書を提出

全国協議会は、3月に入って二つの要望書を提出しました。

一つは「看護学校教育の中で、骨髄移植をもっと取り上げて下さい(要望)」です。

3月19日付で文部科学大臣と厚生労働大臣あてに提出したこの要望書は、前文で看護師養成のための教育課程での骨髄移植の修学機会が不十分であること

を指摘し、具体的に次の3点を要望しました。

1. 看護系大学、看護系専門学校の教育課程で使用される教科書の中で、骨髄移植に関する記述内容が充分であるか否か、検討してください。
2. 骨髄移植が適応となりうる疾患、及びその患者の看護についての講義の中で、骨髄移植に関する教育が充分であるか否

また、3月25日付で厚生労働大臣あてに提出した「同種末梢血幹細胞移植に関する要望書」は、別掲の通りです。

か、検討してください。

3. すべての看護学生が、骨髄移植に対する関心を抱き、充分に理解を深めることができるよう、必要な措置を講じてください。

また、3月25日付で厚生労働大臣あてに提出した「同種末梢血幹細胞移植に関する要望書」は、別掲の通りです。

2003年 全国骨髄バンクボランティアの集いin横浜へのおさそい

■5月17日(土)

全国骨髄バンクボランティアの集いin横浜
横浜市開港記念会館講堂(JR・地下鉄関内駅下車 徒歩5分)

◇記念式典 13:30~15:00

主催者挨拶/来賓挨拶/感謝状贈呈/ポスターコンクール表彰式

◇講演&トーク 15:20~17:00

講演 「患者になって見えたもの」講師・上野創
トーク「患者・家族が語り始める時」上野夫妻/患者さん/患者家族

◇医療講演会 11:00~13:30(横浜市開港記念会館1号室)

小児血液疾患の治療(東海大学医学部附属病院・矢部善正氏)/成人血液疾患の治療(神奈川県立がんセンター・丸田孝郎氏)/さい帯血移植の現状(東京大学医学部附属病院・井関徹氏)/患者さんがよりよい生活を送るために(虎ノ門病院・松崎道男氏)

めに(虎ノ門病院・松崎道男氏)

◇医療相談 (横浜市開港記念会館2~5号室)

11時からおひとり20分間隔で15時まで個別相談を行います。希望される方は 氏名/連絡先 TEL/成人・小児の別/希望相談時間帯(第3希望まで)を全国協議会事務局までFAXかハガキにてお申し込みください。小児9名、成人11名で4月7日より先着順にて受け付けます。

カウンセラーは以下のとおりです。

小児：矢部善正氏、丸田孝郎氏、真部淳氏(東京大学医学部附属病院内)
成人：井関徹氏、松崎道男氏、藤澤信氏(横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター)

■5月18日(日)

9:00~11:00 全国協議会 2003年度通常総会

11:00~14:00 代表者会議(共に横浜市開港記念会館1号室)

また、関西医大池原教授は、骨髄内骨髄移植(IBM-BMT)とも呼ぶ新たな造血幹細胞移植術を紹介。ドナー側の大腿や上腕などの太い骨の2カ所に注射針を刺し、一方から血液と同じ濃度の食塩水を入れながら、反対側から造血幹細胞とストローマ細胞を採取し、レシビエントの大腿骨等に直接注入するという方法。この方法によりドナー由来の血液やリンパ球が混じらず、HLA不一致でも移植が成功し、様々な疾患に應用が可能であると報告されました。また動物(サル)実験段階ですが、臨床応用が期待される画期的な医療技術です。

他には、血縁者間PBSCTの現況が報告され、過日発表された学会によるドナー長期フォローアップ事業におけるAML発症事例についても報告され、今後の調査解明の方針が示されました。(三田村)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●2月のドナー登録数、推進月間より3カ月連続2000人超!

2月の月間ドナー登録者数は2076人で、取消者数は556人、実質増加数は1520人でした。登録会は93回(うち献血併行87回)が実施され、合計823人の方にご登録いただきました。前年同月との比較では、回数では160.3%、登録者数では113.8%でした。

一方、固定窓口の登録者は1253人と前年同月比117.3%で、先月に引き続き1000人を上回る登録者がありました。昨年2月は、「プロジェクトX」の放送の反響で1000名以上の登録があり、前年比はそれほど高くはなかったものの、窓口登録数は今年度最高でした。全体としては推進月間の12月、10月、1月について今年度4番目の実績となりました。

●説明・採血分離方式いよいよ始動。申込書持参で全ての献血会場で登録可能に

本年4月より、骨髄ドナー登録の事前説明会で説明を受け「登録申込書」の記入内容を説明担当者が確認した登録希望者は、全国の全ての献血会場(血液センターや献血ルームなどの固定窓口、移動献血バスを含む)で登録採血ができるようになります。

これまでの、集団登録会、献血併行登録会に加え、説明だけを行う分離方式の「事前説明会」が位置付けられることとなります。採血の医師が確保できずに登録会開催を断念するケースが多くなりましたが、どこでも説明会を開くことが可能となります。また、職域登録会などで時間的な拘束がある場合にも、有効に活用できる方法です。

事前説明会は、財団(地区普及広報委員など)が実施計画書を事前に血液センターへ提出し、説明会では提供希望者へ骨髄提供に関する説明を行い、登録意思と申込書の記入内容を受付担当者が確認して「登録申込書」に押し、登録希望者へ最寄りの血液センターへ送るとともに配布します。登録希望者は血液センターへ連絡し、献血場所を確認し、希望

の献血会場で登録していただくこととなります。なお、この登録申込書の期限は3カ月です。

●ミニ移植、中高年齢者への対応について

移植医療技術の進歩により、骨髄非破壊的な前処置を減量した造血幹細胞移植、いわゆる「ミニ移植」といわれる方法が、欧米から始まり国内でも血縁者間において急速に広がっています。

当初この治療法では、移植後のDLI(ドナーリンパ球輸注)が想定されていましたが、最近では、DLIを必要としない方法が一般的になってきています。

3月15日の財団医療委員会で、「財団では非血縁者間骨髄移植の前処置の内容について制限や規制、規定等は設けていない」ことが確認され、「ミニ移植は、患者・主治医で前処置方法を検討し実施しても差し支えない」とされ、各施設、主治医に通知されることとなりました。

また、骨髄バンクでは、すでに51歳以上の患者さんの申請も可能となっています(51歳以上の場合は、指定の確認書の提出が必要)。中高年齢者(50歳~65歳程度)の移植について、移植現場に十分浸透していない実態があるため、「患者・主治医の希望と判断により実施されていること」を改めて周知することとなりました。なお、今後とも移植患者(主治医)がDLIを希望されても「ドナーの方の健康状況や、同意の問題で提供が得られるとは限らない」ことは従前と同じですので、ご承知おき願います。

●「原宿ファッションボード」東京屋外広告コンクールで会長賞受賞
一昨年の骨髄バンク10周年記念事業の一環として、JR原宿駅ホーム正面の大型看板に骨髄バンクのポスターが連作として掲示されましたが、この度、この作品が「第3回東京屋外広告コンクール」で、会長賞を受賞

厚生労働科学研究事業 5班合同 公開シンポジウム ~新しい移植技術の展開、 母子間免疫寛容と IBM-BMT~

毎年開催されている厚生労働省研究班の公開シンポジウムが3月1日に東京医大で開催されました。5班の研究テーマは、さい帯血移植、造血幹細胞の増殖、造血幹細胞の増殖分化制御、末梢血幹細胞移植、造血細胞の自己修復・再生能力というものです。

中でも、新しいトピックとして興味深い話が2題ありました。京大からは、NIMA相補的造血幹細胞移植として母子間免疫寛容という効果でHLA不一致血縁者間でも移植の成功率が上がるというもの。母胎妊娠を例にするとわかりやすい話でカメラについても考察させる内容でした。

また、関西医大池原教授は、骨髄内骨髄移植(IBM-BMT)とも呼ぶ新たな造血幹細胞移植術を紹介。ドナー側の大腿や上腕などの太い骨の2カ所に注射針を刺し、一方から血液と同じ濃度の食塩水を入れながら、反対側から造血幹細胞とストローマ細胞を採取し、レシビエントの大腿骨等に直接注入するという方法。この方法によりドナー由来の血液やリンパ球が混じらず、HLA不一致でも移植が成功し、様々な疾患に應用が可能であると報告されました。また動物(サル)実験段階ですが、臨床応用が期待される画期的な医療技術です。

骨髄バンクNOW

することになりました。

●ミュージカル「明日への扉」9年間で50公演、啓発面でも大きな反響。
平成5年(1993年)、骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」の公演活動は、学校法人滋慶文化学園グループの専門学校生徒により、大阪を皮切りに始まり、東京、大阪、福岡で毎年開催され、9年目の昨年秋には累計50回、観客動員数は延べ5万5千余人を数えました。こうした中で、既にドナー登録される学生も多く、実際にドナーとなった方もおられます。

さらに、公演の度に生徒の皆さんが呼びかけた募金は、毎年3月の学園グループの卒業式で贈呈式が行われますが、現在までに七百万円を超える実績となりました。

●日本骨髄バンクの現状(2003年2月末現在)

	2月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,078	167,263	208,858
患者登録者数	132	2,051	13,911
骨髄移植例数	61	-	4,700

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。



平成14年度ドナー登録会開催状況

掲載した表は平成14年度のドナー登録会開催状況(財団データによる)です。数字は3月4日現在ですが、昨年3月末と比較してみると、献血併行型登録会については約320回の増加となっており、登録者数も約1300人増加しています(1回あたりの人数は減少)。また、献血併行型の開催都道府県は昨年の35から42に拡大しています。一方集団登録会は回数も登録者数も減少しており、登録会全体の登録者数としては大きく伸びているとはいえない状況です。献血併行、集団登録とも、1回あたりの登録者数をいかに伸ばすかが課題といえるようです。

1・東京

東京都内の献血併行登録会は、日赤献血会に財団が登録会を併行させてもらうケースが主で、特定官公庁・民間企業が対象であるため、献血者の反復提供により献血確保に大きく貢献していますが、ドナー登録者は回を重ねると減速してきます。集団登録会開催が必要な所以です。東京地区では東京の会が主として開催し、地区普及広報委員、ライオンズクラブ等の開催も若干含まれます。東京都および23特別区の併行登録会・集団登録会への実施支援体制がようやく動きだしており、今後の財団と支援団体の働きかけが一層重要性を増す段階を迎えています。(新田)

2・福島

福島県における平成14年度のドナー登録会は78回になる見込みです。3月17日現在、76回(併行71回、集団5回)で601名(約8人/回)の登録です。昨年度は26回(併行22回、集団4回)で511名(約20人/回)ですから、効率は半分以下になってしまいました。回数を増やしたことで登録総数は増加したものの、事前広報が手薄になり、1回あたりの人数が減ってしまつたと反省しています。また、昨年と同じ献血会場での登録会が多く含まれていたことも一因です。登録場所の選定計画と十分に事前広報が可能なら回数選定も重要だと感じました。説明員がボランティアではなく専任で県内各地に配置できれば、回数・登録数増も可能だと思えます。「登録したいと思つた」と言ってくれる人はまだまだいるのですから。(陽田)

3・愛知

愛知県では県や名古屋市の保健所など行政が積極的で、環境などが行われました。学校全体に呼びかけた募金活動

No.	都道府県	移動献血併行型		集団登録型		その他型登録会		合計	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
1	北海道	41	302	4	91			45	393
2	青森	1	5					1	5
3	岩手	1	7	6	87			7	94
4	宮城	11	134	7	159			18	293
5	秋田	18	168	3	30			21	198
6	山形	6	17	3	53			9	70
7	福島	73	496	5	88			78	584
8	茨城	25	335					25	335
9	栃木	30	117	1	16			31	133
10	群馬	1	6	1	26			2	32
11	埼玉	10	93	9	266			19	359
12	千葉	13	146	4	85			17	231
13	東京	86	757	10	342			96	1,099
14	神奈川	3	77	5	337			8	414
15	新潟	18	113	19	731			37	844
16	富山	50	207					50	207
17	石川	44	130	5	46			49	176
18	福井	5	26	5	29			10	55
19	山梨			1	66			1	66
20	長野	3	2	20	12			23	14
21	岐阜	21	186	5	37			26	223
22	静岡	10	73	3	15			13	88
23	愛知	71	768	2	36			73	804
24	三重	21	110					21	110
25	滋賀			1	16			1	16
26	京都	27	206	18	68			45	274
27	大阪	19	196	7	120			26	316
28	兵庫	38	279	3	39			41	318
29	奈良	5	18	1	14			6	32
30	和歌山	1	5	12	76			13	81
31	鳥取	1	22	4	96			5	118
32	島根	12	101					12	101
33	岡山	4	87	5	243			9	330
34	広島	14	128	4	61			18	189
35	山口	8	63	4	38			12	101
36	徳島	15	27	2	15			17	42
37	香川	3	47					3	47
38	愛媛			1	55			1	55
39	高知							0	0
40	福岡	12	83	3	35			15	118
41	佐賀	2	1	3	74			5	75
42	長崎	3	9	5	70			8	79
43	熊本	1	6	1	8			2	14
44	大分	2	18	5	57			7	75
45	宮崎			1	14			1	14
46	鹿児島	7	62	3	66			10	128
47	沖縄	65	1,216					65	1,216
合計		801	6,849	201	3,717	0	0	1,002	10,566

※財団提供データ(3月4日現在)により全国協議会にて作成

心からのご寄付をありがとうございました

2月17日～3月23日

- 岡崎市立甲山中学校生徒会 現金 100,000円
- 浅井み奈子 現金 1,000円
- 株式会社タクトコーポレーション 現金 30,000円
- ヤマダヤスヒロ 現金 9,370円
- 松山聖ルカ幼稚園 現金 1,500円
- TDK株式会社成田工場・市川テクニカルセンター 現金 300,000円
- サントリー労働組合 現金 516,679円
- 雪像研究会 現金 10,000円
- 駒西小学校PTA有志一同 現金 2,138円
- 東京マリンロータリークラブ 現金 118,860円
- 匿名 切手 4,000円
- 匿名 現金 4,305円
- 匿名 現金 10,000円
- 飯島孝枝 現金 1,000円
- 切明 躰 現金 5,000円
- 岐阜骨髄献血希望者を募る会 現金 500,000円
- 辻林和巳 現金 1,000円
- 今野多助 現金 5,000円
- 岡崎市立竜海中学校 現金 300,000円
- 佐藤さち子患者支援基金
 - ジャスコ鳥取店 現金 59,310円
 - 美濃加茂市立伊深小学校6年生 現金 29,157円
 - 美濃加茂市立伊深小学校家庭教育学級 現金 15,000円
 - 切明 躰 現金 5,000円
 - 京都市なかよし会(多田そうへいふれ愛コンサート募金より) 現金 20,000円
 - 栗原鉄夫 現金 5,000円
 - 石原和彦 現金 5,000円
- 白血病患者支援基金・募金箱
 - 山田わか 現金 5,000円
 - 中山美也子 現金 150,000円
 - 株式会社クスリのアオキこばとの会 現金 50,340円
 - 高澤大介 現金 10,000円
 - 谷口明子 現金 3,000円
 - シオンドラッグ花水店 現金 2,988円
 - ココストア近江屋 現金 3,207円
 - 松山聖ルカ幼稚園 現金 1,500円
 - マックスバリュウ辰巳台店 現金 3,808円
 - 株式会社ビタミンドラッグ 現金 3,087円
 - 株式会社榊薬調剤 現金 1,000円
 - 鎌倉屋 現金 1,990円
 - さくら薬局白金台店 現金 2,640円
 - 高田商事株式会社 現金 22,820円
 - 有限会社さかえ薬局 現金 3,061円
 - サークルK楠村店 現金 4,481円
 - すけろく上福岡店 現金 6,250円
 - 株式会社カンセキ 現金 6,658円

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754

特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

各地のタより

小学生が学習発表

2月17日、岐阜県美濃加茂市伊深小学校では、2年間にわたって「いのちのあさがお」の学習に取り組んできた6年生の発表が行われました。2年目の今年、骨髄バンクでの提供者や、骨髄移植で元気になった元患者さんから白血病について学習したほか、福祉フェスティバルでのボランティア体験を通してボランティアの意義を学んだり、学校全体に呼びかけた募金活動などが行われました。

各地のタよりを写真を添えてお寄せください。

は大変恵まれています。日赤もとても協力的です。しかし、回数は多くても一回の登録者数は徐々に減ってきています。臓器移植のカードと混同しているなど骨髄バンクの内容を誤解されている方も多くいます。もっともっと広報を充実させなくては、と思われました。また申し込み用紙の書き損じが多いということも説明員のフォローアップ研修会も行いました。(吉田)



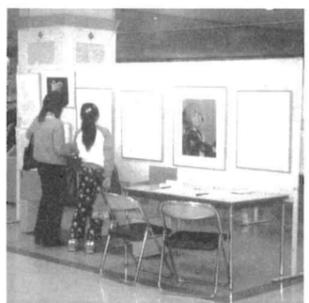
(田中)

埼玉 医療講演会 & 患者相談会

埼玉連絡会は埼玉県と共催で「血液疾患に係る医療講演会 & 患者相談会」を3月15日に川越市で開催しました。講演は二つの内容で行われ、はじめに県立がんセンターの棚本信男氏が「骨髄・さい帯血・末梢血幹細胞移植について」と題して、血液疾患の種類やそれぞれの移植方法をわかりやすく説明していただきました。特に、最近普及してきているミニ移植の話は興味深い内容でした。

兵庫 ジャスコ洲本店で「あやちゃんの贈り物展」

3月9日、淡路島のジャスコ洲本店で「あやちゃんの贈り物展」を開催しました。当日は、同じフロアで、神戸骨髄献血の和を広げる会の協力を得て洲本保健所スタッフによるドナー登録会も実施しました。あやちゃん展は買い物客の方々から真剣に見入っていました。「生まれ変わって画家になってほしい」「この子のことをもっと多くの人に知ってほしい」という感想



(兵庫健康局業務課・入本)

第29回理事會報告

3月16日・全国協議会事務局

- 後援の承認について
- 2003年度総会について
- 保険適用に向けた取り組みについて
- 小冊子「白血病と言われたら」再改訂版の発行について
- 「全国骨髄バンク推進連絡協議会」の名称について
- イオン募金活動の加盟団体への割り戻しについて
- 第2回役員選挙について
- 佐藤さち子患者支援基金関連について
- CFカード、アフィリエイトについて
- JASチャリティマイルについて
- 財源確保に向けた取り組み状況について
- 財団の新役員等への参画について
- 厚生科学審議会造血幹細胞移植委員会について
- グッズの作成について



医療現場ではさい帯血移植が二次的に考えられている誤解があること、指摘は、参加者の意識を新たにすることがあったと思